オビトカゲモドキ

【所　在　地】徳之島
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】平成１５年４月２２日

1　本種は生きている化石といわれ，徳之島のみに生息する。クロイワトカゲモドキからの固有亜種であり，進化や系統をたどるうえで重要である。
2　ヤモリには瞼（まぶた）がなく目を閉じることができないが，ヤモリの仲間である本種は，瞼があり目を閉じることができる。生態がヤモリとトカゲの中間型生物の傾向がみられ，生態学的特異性が認められる。
3　生息数が少なく，僅かな環境変化による影響を受けやすい。

オットンガエル

【所　在　地】奄美大島及び加計呂麻島
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】平成１７年４月１９日

奄美大島及び加計呂麻島の固有種。

沖縄諸島固有のホルストガエル（沖縄県の天然記念物）に形態は似て，ともに遺存性が高く，近縁種や種群が不明で，琉球・奄美の古地理・環境との結びつきを強く示唆される。

アカガエル科の非常に大型（頭胴長雄93～126mm，雌111～140mm）のカエルで，頑丈な骨格を持つ。前肢（ぜんし）には第１指の内側に袋状の肉質拇指（ぼし）が発達し，拇指には骨質の棘がある。

東アジア産のアカガエル科の中では異質で，普通集団繁殖は行わず，渓流や山中の水たまり等の止水に直径2.0～2.5mmの卵を800～1,300個散発的に産む点においても，学術的に価値がある。

マングース等の外来の捕食者，森林伐採などの環境変化によって激減しているといわれ，保護の必要な両生類である。

地域を定めず指定。（種指定）